

彩の歳時記

平成二十二年 三月

黄鶴楼送孟浩然之広陵

故人西辞黄鶴楼

烟花三月下揚州

孤帆遠影碧空尽

唯見長江天際流

旧友、孟浩然是西の黄鶴楼を去り、春霞がたなびく三月に、揚州へと下ってゆく。ぼつりとうかぶ遠い帆影は碧空の彼方へと消え、ただ長江が空の果てに流れるのを見るだけだ。

「黄鶴楼送孟浩然之広陵」は 中国詩歌史上、同時代の杜甫(詩仙)とともに

最高の存在とされる李白(詩聖)【701〜762】の友人を送る歌として教科書にも採り上げられる有名な詩。「春三月」は別れの季節、この詩は友を送る心情を川の流れの光景を通して、壮大に謳いあげています。烟花は春霞、長江は中国、最大級の河川で下流は揚子江。

三月の異称

弥生

草木弥生(くさききいやおいる)月。



三月の暦

三日 桃の節供・雛祭り(上巳の節供) 元は三月上旬の巳の日。旧暦ではこの頃、桃の花が咲く。川で身を清め不浄を祓う中国古来の慣わしが、後に紙で人の形(形代)に穢れを移し、流すようになった。「源氏物語」の須磨の巻に光源氏がお祓いをした人形(形代)を船に乗せ、須磨の海に流す場面がある。京都市下賀茂神社の流し雛は有名。

六日 啓蟄【二十四節気】土の中の虫(蟄)が穴を開(啓)いて動き出す。気温が上がってゆく。



十日 東京大空襲記念日 1945(昭和20)年、この日深夜、東京でB29爆撃機の焼夷弾攻撃により死者十万人、消失家屋二十七万戸という第二次世界大戦で最大級の被害を出した。

十二日 奈良東大寺二月堂お水取り 春の訪れを告げる行事。この日の夜、鐘の合図で松明(たいまつ)を手にした僧達が回廊を駆け抜け、その火の粉を浴びると厄除けになると言われる。

十四日 ホワイトデー バレンタインデーの返礼の意味でプレゼントを送る日として、近年定着。

十八日〜二十四日 彼岸 暑さ寒さも彼岸までと言われるように寒さも去り、百花咲き乱れる春本番に。

二十一日 春分の日【二十四節気】昼と夜の長さが同じになる。春を祝福する日。

二十二日 振替休日 祝日法の改正により1973年(昭和48)年四月から設けられた休日

二十六日 鉄幹忌 歌人・詩人で與謝野晶子の夫、與謝野鐵幹【1873〜1935】の忌日。



「妻をめとらば才たけて みめうるわしく情ある 友をえらばば書を読み 六分の快気四分の熱・人恋うる歌」は有名で壮士・英雄的な調子が旧高等学校生徒の気概に通じるとして 長く歌い継がれている。

三月の言葉 水ぬるむ・風光る・花信風(かしんふう)は花咲く時期を知らせる春の風。

三月の歌 仰げば尊し 明治十七年『小学唱歌集』作詞不詳 スコットランド民謡

戦後、歌詞が教師を崇めるもので、民主主義にそぐわないとの批判もあり特に六十年代末の学生運動による反体制の一環として、卒業式で歌うことを憚る空気があった。また歌詞が文語体で理解しにくいことから、歌う機会が減少しているが、曲調は別離の情感に溢れ、多く好まれている。

「仰ぎ見ればわが師の恩は尊く、学校生活も早何年、思い返せば本当に疾(はや)く月日は過ぎ、今は別れの時、さようなら」

仰げば尊し 我が師の恩 教えの庭にも はや幾年 思えばいと疾(し)この年月 今こそ別れめいざさらば 互いに睡(ぐ)し 日頃の恩 別るる後にもやよ忘るな 身を立て名をあげやよ励めよ 今こそ別れめいざさらば 朝夕なれにし 学びの窓 螢のともしび 積む白雪 忘るるまぞなき ゆく年月 今こそ別れめいざさらば